

◆技術交流事業

ホンダワラ藻場造成の先進地視察

本部駐在

與那嶺 盛次

1. 目的

今帰仁漁協は、シラヒゲウニの主産地で、ウニ生産部会の自主的な資源管理で計画的な漁獲が実施されているが、近年、地先のホンダワラ藻場の衰退等によりウニの漁獲量が減少している。そこで、ホンダワラ藻場造成に取り組んでいる宮崎県において先進地視察を実施した。

2. 日程

平成20年2月26日～2月28日

3. 視察先

宮崎県水産試験場

宮崎県串間市東漁業協同組合

4. 視察参加者

諸喜田 敦(今帰仁漁協組合長)

喜屋武盛彦(今帰仁漁協ウニ生産部会員)

仲宗根秀人(今帰仁漁協ウニ生産部会員)

5. 引率者

與那嶺盛次(沖縄県水産業改良普及センター
本部駐在主任技師)

6. 視察内容

平成20年2月27日午前、宮崎県水産試験場にて増殖部荒武久道主任技師より藻場回復調査や藻場造成試験の説明を受けた。

宮崎県の藻場衰退の原因は主にムラサキウニやアイゴ等の魚による食害である。アイゴ等食害魚の少ない海域では、浅いところに高さのある基盤を置くことで、流れを強くしてウニ類に食べられにくい環境を作り核藻場を

形成することが可能であった。ウニ類の除去は1回除去した後縁辺部を繰り返し除去することで、内側のウニ生息数を低く抑えることが可能であった。本県のナガウニの駆除にも利用できると思われる。

藻場を回復させるためには、回復制限要因の排除や効率的な種苗の添加が必要で、現在、ホンダワラ類5種類の種苗生産に成功し、陸上水槽で藻体まで生育させている。

2月27日午後、南那珂農林振興局農政水産課田牧幸一技師の案内で、串間市東漁業協同組合にて、近藤守組合長や毛久保青壮年部上原忠文部長よりホンダワラ藻場造成の説明を受け現場を視察した。

宮之浦港の内側で囲い網を設置することによって、母藻は生長し種を出したが、幼体の生長は難しかった。そこで、宮之浦港の入口付近に鹿児島県で成功事例のある中層式母藻展開網を導入した。冬季調査では周辺の幼体の加入状況は良好で、現在、継続観察中である。また、宮之浦港外側で基盤を設置し周辺をウニフェンスで囲った藻場造成試験を宮崎県水産試験場と共同で実施している。

7. 所感等

今帰仁村海域だけでなく沖縄本島西海岸のホンダワラ藻場が減少しているとの話はよく聞くので、今後その回復に向けての取り組みの参考にしたいと思います。

最後に視察を快く引き受けてもらった宮崎県水産試験場及び串間市東漁業協同組合の皆様は心より感謝申し上げます。



①ホンダワラ藻場造成試験説明(宮崎県水試)



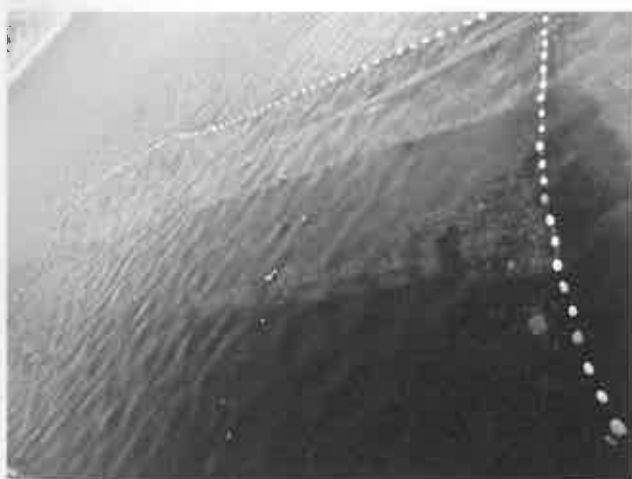
②ホンダワラの水槽での生育説明(宮崎県水試)



③ホンダワラ類の水槽での生育状況



④ホンダワラ藻場造成説明(串間市東漁協)



⑤囲い網によるホンダワラ藻場造成
(宮之浦港内)



⑥視察に参加した皆さん